

Ⅱ. 体育的行事

異学年交流を図り、
自分の体力に関心をもたせる



全校運動集会

運動を通した異学年交流を!

近年、学校では様々な交流活動が盛んに行われています。生活科や総合的な学習の時間、あるいは特別活動などで交流の場面が設定されることが多いですが、子ども同士が運動や運動遊びを通して、全校でのびのびと交流する場も設定したいものです。子どもたちは本来、群れ集まって体を動かす遊びを好むものです。全校で運動を楽しむ集会を通して、幅広い異学年交流を図るとともに、体育や日常生活で積極的に運動に取り組もうとする意欲を高めることができます。

ポイント!

ここが



1. ねらいについて

異学年交流を深めるのか、運動体験を広げるのか、自分の体力や運動能力に関心をもたせるのか等々、学校の実態に応じてねらいの重点化を図るとよいでしょう。どのようなねらいを設定するにしても、誰もが体を動かす楽しさを味わえるような集会にすることが大切です。

2. 時期について

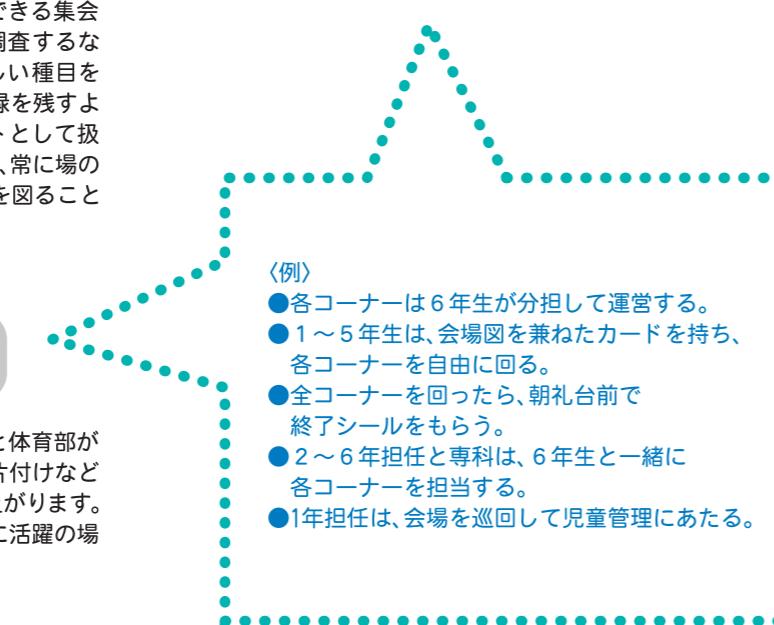
新学年の生活も落ち着いてきた5～6月頃に行うと、新1年生やクラス替え後の新しい友達との交流が図れます。また、学年末に行うと、6年生やクラスの友達とのお別れ行事としても位置付けることができます。ねらいに応じて実施の時期を考えるとよいでしょう。

3. 種目について

種目の内容を、体育で行う運動をアレンジしたものにしたり、「伝承遊び」「鬼ごっこ」などの様々な「運動遊び」にしたり、従来の「体力・運動能力テスト」的なものにしたりすることによって、多様なねらいに応じた多様な楽しみ方のできる集会をつくることができます。事前に子どもの希望を調査するなどして種目の選定を行い、バラエティに富んだ楽しい種目を用意しましょう。毎年、同じ種目で行って個々の記録を残すようにすれば、学校オリジナルの体力・運動能力テストとして扱うこともできます。また、校庭の遊具を利用するなど、常に場の設定ができる種目を行うことにより、運動の日常化を図ることもできます。

4. やり方について

児童数、施設、設備の状況等、学校の実態に応じて工夫しましょう。参加の仕方や約束ごとなどは、各クラスで事前指導をしっかりと行い、混乱のないようにしましょう。

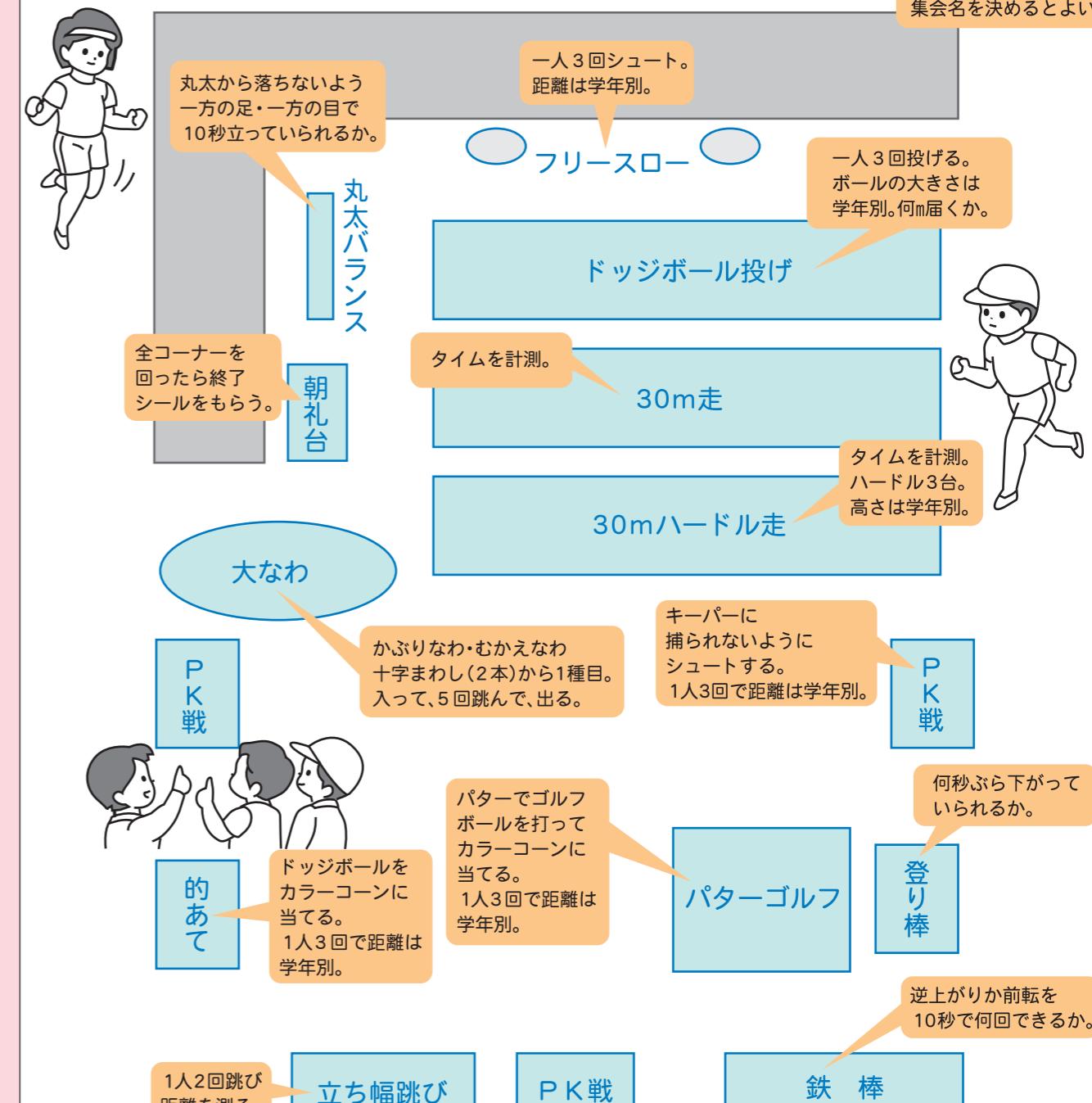


5. 企画立案・係分担などについて

企画立案に際しては、ねらいに応じて、特別活動部と体育部が十分に連携を図ることが必要でしょう。準備、進行、片付けなどの実務を子ども主体で行わせることで集会も盛り上がります。児童会をはじめ、体育、集会などの委員会や6年生に活躍の場面をたくさん与えましょう。

フレンドスポーツフェスティバル2003

児童会で話し合って集会名を決めるといい。



注意!

- カラーコーンのところで順番を待ちましょう。
- 全コーナー終了シールをもらったら、2回目のチャレンジをしましょう。
- 6年生の指示をよく聞きました。